



世界とつながる観光地・沖縄をさらに発展!!
ますます観光が重要なキーワードになっている沖縄の、現状と最新事情をお伝えします。

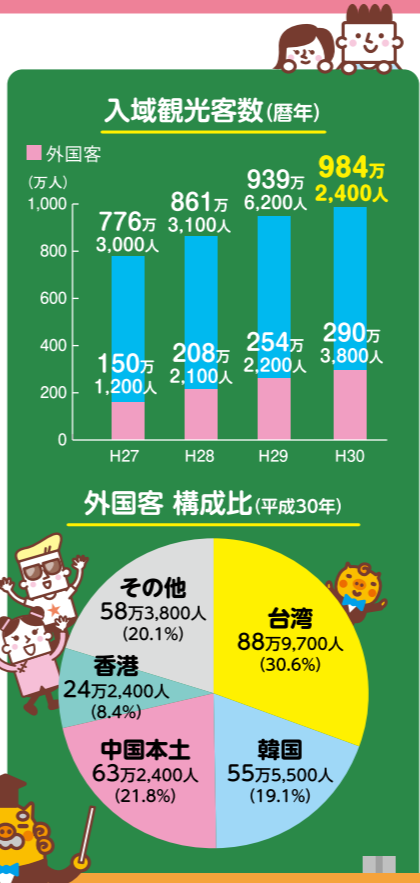


Q1 海外からの観光客は増えているの？

A もつす今年間300万人を
超えるほど、
外国人観光客は増えているよ。

アジアにおいて、沖縄の観光地としての知名度は着実に高まりつつあります。平成29年には入域観光客数が900万人を突破し、さらに昨年は前年を約45万人人率にして47%上回る984万2千人を記録。一千万人超えも目前となってきました。入域観光客数

のうち30%ほどは外国人で、台湾、中国、韓国、香港の順に各国から観光客が訪れています。外国人観光客が大幅に増える一方で、課題もあります。例えば平均滞在日数は、県が掲げる目標4.5日に対して約3.7日(平成29年度)。それに伴い、一人あたりの消費額も2年連続で前年比を割り、伸び悩んでいます。観光客の長期滞在と観光商品の高付加価値化を促す施策が求められています。



Q2 飛行機やクルーズは受け入れできているの？

A 空港や港湾の整備が進み、
受け入れ体制が整ってきたよ

国内外から観光客を呼び込むには、飛行機や船といった移動のインフラがしっかりしていることが必要です。那覇空港では、3月より国内線と国際線の両ターミナルを結び、際内連結ターミナルの運用を開始。貨物ターミナルにあつたLCCが移転し、チェックインカウンターも増設するなど、大幅に利便性が上がりました。来年には第二滑走路の運用を予定しており、ますます航空路線が充実することが予想されています。

また、宮古島や石垣島などの離島便も充実しており、3月には宮古島と橋で結ばれた下地島で「みやこ下地島空港ターミナル施設」が新しくオープンしました。アジアと沖縄の海路をつなぐ大型クルーズ船の寄港も盛んです。那覇港にクルーズターミナルが整備されたほか、中城湾港、本部港、平良港(宮古島)、石垣港がクルーズ船の寄港地となっています。

那覇空港際内連結ターミナル

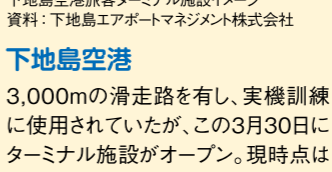
国内線と国際線をつなぐターミナルが3月18日に供用を開始。国際線のチェックインカウンターを移転し、3倍の規模になった。



那覇空港際内連結ターミナル施設イメージ
資料：那覇空港ビルディング株式会社

那覇クルーズターミナル

2014年に旅客ターミナルがオープン。国際通りやモノレールの各駅まで車で10分、首里城まで車で20分という立地が好評。



下地島空港
3,000mの滑走路を有し、実機訓練に使用されていたが、この3月30日にターミナル施設がオープン。現時点は成田便のみだが、7月には香港便や関空便などが就航予定。

Q3 どんな取り組みをしているの？

A 外国人観光客が、
沖縄で過ごしやすくなる
ための施策を行っているよ。

日本で唯一の観光地である沖縄は、アジア諸国より多くの観光客が訪れるようになりまし。とはいえ、いかにストレスなく快適で安全に過ごせるか、そして長期滞在しても楽しめるのかという点において、まだまだ課題は残るため、県では様々な施策を行っています。

多言語コンタクトセンターを
案内するチラシ。



多言語対応

外国人観光客の増加に伴い、各国の言語への対応が進んでいます。外国人観光客専用の公共サービスである多言語コンタクトセンターもそのひとつ。英語・中国語(繁体字、簡体字)・韓国語・タイ語の4言語に対応しており、観光案内や通訳サービス、災害時の対応などを電話、メール、Skypeを通じて行なっています。



観光における中核人材を
対象とした研修の様子。

観光人材育成

観光地としてのインフラや設備が充実していく反面、観光に携わる人材が不足しており、早急な人材育成が求められています。観光人材育成センターでは、観光事業者等の人材育成研修への支援、中核人材を対象とした研修の実施、小中高等学校・専門学校への観光出前講座、清掃ボランティア活動への支援など様々な活動を通して、観光人材の育成を行っています。

例えば、多言語対応もそのひとつ。多言語コンタクトセンターを運用しており、外国人が電話やメールで気軽に観光案内や通訳サービスなどを受けられることができます。また、昨年4月から、病気やケガといった問題が起こった際も24時間対応できる医療対応多言語コールセンターを配備。いざという時も安心な体制を整えました。

持続可能な環境共生型観光の推進

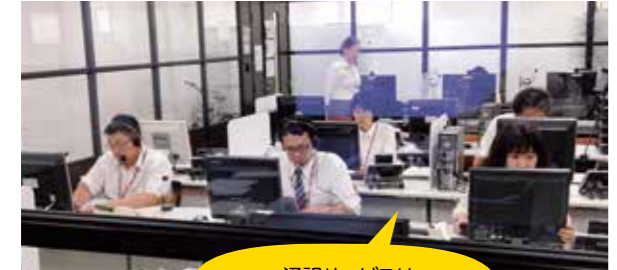
本島北部(やんばる)や西表島が世界自然遺産への登録を控えていることもあり、観光客の増加に伴う環境と観光の共生が課題となっています。地域資源の保全に関する活動支援やエコツアー事業者の人材育成、県内外のプロモーションなどにも力を入れています。



エコツアーリズムの
人材育成を行っている。

防災・医療対策

言葉の通じない外国人観光客にとって、病気やケガになった時ほど心細いものはありません。そのため、インバウンドに対応する医療・観光従事者向けの医療対応多言語コールセンターを設置し、24時間いつでも利用できる通訳サービスを提供しています。また、台風や津波といった災害時の対応や、SNSでの情報発信なども徐々に整備を進めています。



通訳サービスは
24時間いつでも対応できる。

今後どんどん受け入れ体制の整備を進めていくよ!!